

創立 30 周年記念誌

# こころの潤い



株式会社 **フローレン**

## *contents*

# 目 次

### 序文

ご挨拶	2
企業理念	3
事業領域・キャッチフレーズ	5
行動規範	6
信 条	7
社名・ロゴマーク	10

### 沿革

11	概 要
13	業務経歴
15	飛躍する企業に向けて

### 営業所紹介

総務部・サービス課	17
本社セミオペ課・本社営業部フルオペ課	18
長野県佐久営業所・長野営業所	19
特販部・自販機コーナー部	20
レユネール株式会社	21

### 思い出のアルバム

22	地域顧客とのふれあい
23	伸びゆく芽

### 資料

組 織	28
年 表	29

## 創業30周年を迎えて



株式会社 フローレン

代表取締役社長 福沢 敏雄

私たち株式会社フローレンは昭和50年12月25日に営業を開始し、翌昭和51年に清涼飲料販売業として創業し、平成18年でお陰をもちまして創業30周年を迎えました。

以来、「おいしい飲み物を多くの人々に、いろいろな場所で」提供することを一途に追及してまいりました。

幸いにして、お得意様各位、飲料メーカー、自販機メーカー様をはじめ、日ごろ御愛顧賜っております関係者の皆様のご協力を頂き、現在、いささかなりとも地域経済を担う企業として、成長・発展することができたと自負しております。

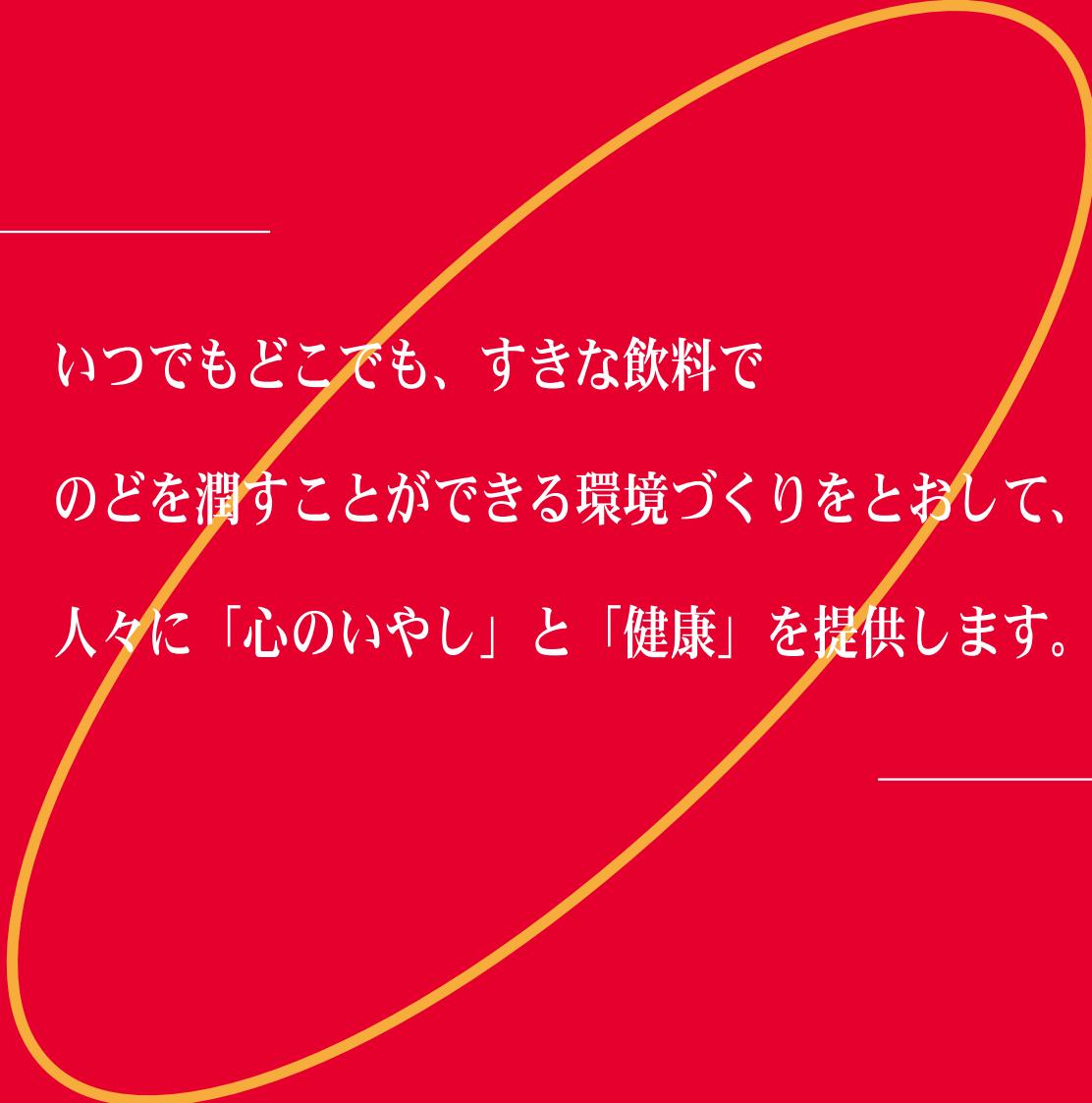
また、社員に対しても単なる、飲料販売配達人という意識ではなく、同じ地域の生活者として「のどの潤い」はもちろん、「心の潤い」もお届けする、豊かな人間性を身につけることを促しています。社員一人ひとりが、お客様と常にまごころで接することのできる人間として、成長し全員が楽しく、積極的に働き、高い充実度・満足度が得られる企業を目指しております。

最近の経済環境、社会情勢の変化の激しさ、さらには清涼飲料業界の競争の激化など私どもをとりまく環境は大変けわしいものがあります。

このような環境下、30年を一区切りとし、我社を未来永劫存続、発展させるべく、尚一層精励しなければならない覚悟を新たにしている次第です。

今後とも、関係者各位の相変わらぬご支援と、ご指導をお願い申し上げまして私のご挨拶にさせて頂きます。

2006年12月



いつでもどこでも、すきな飲料で  
のどを潤すことができる環境づくりをとおして、  
人々に「心のいやし」と「健康」を提供します。

フローレンの企業理念です。  
社員一人ひとりの積極的な努力により、  
地域に潤いをお届けすることに、  
真剣に取り組んでいます。

私たちは、いついかなる時でもまごころをもって人と接します。  
常に相手や周りの人のために、何ができるかを真剣に考え、  
私利私欲なく、心から信頼される人間であることを心がけています。

私たちは、ひとりひとりが自ら高い目標を掲げ、  
それに挑戦していくことによって、自立していくことをを目指しています。  
豊かな人間性を磨き上げ、発想力を身につけ、  
どんなことでも安心して任せていただけるように、心がけています。

## 事業領域

---

飲料水販売企業

## キャッチフレーズ

---

のどに潤いをおとどけ

**フローレン**

## フローレン・行動規範

---

1. 「まごころ」をこめて、お客さまと接する。
2. 「人の心」を知り、地域を知る。
3. 仕事は「自分」のためにやる。
4. 「個性」を活かしたセールスを実行する。
5. とにかく「早く」が勝負、と心得る。

# **フローレンの信条**

## **1. まごころ**

私たちは、いついかなる時でもまごころをもって人と接します。

常に相手の周りの人のためにまごころをもって

何ができるかを真剣に考え、

私利私欲なく、

心から信頼される人間であることを心掛けます。

## **2. 自立心**

私たちは、ひとりひとりが自ら高い目標を掲げ、

それに挑戦していくことによって、

立派に自立していくことを目指します。

豊かな人間性と感性を磨き上げ、

発想力を身につけて、

どんなことでも安心して任せていただけるように心掛けます。

### 3. 「人の心」を知り、地域を知る

フローレンの商売は主に  
「ベンディングマシン」を仲介として成り立っている。  
対人ではなく、モノ言わぬ機械を通しての仕事であるからこそ、  
お客さまとのコミュニケーションを成立させるためには、  
お客さま（人）の「心」がどれだけ分かっているかが大切となる。

お客さまの「心」を知らなければ、  
情報もとれず、対策もなしえない。

また、私たちは、経験上、  
お客さまの「地域性」にかなりの差異があることを知っている。  
「心」をわかる上で、  
地域を知ることも大変重要なポイントである。

ベンダーの中で、  
不思議に「買って下さい」「飲んで下さい」と  
語りかけてくる機械がある。  
それはベンダーを愛し、お客さまの「心」を知る営業活動が生み出  
した  
「活きているベンダー」であると言えよう。  
設置しても放っぽりっぱなしのベンダーは  
決して「買って下さい」とモノを言ってはくれず、  
それでは売上を伸ばすことなど到底不可能である。

# 行動規範

## 1.「まごころ」をこめて、お客さまと接する。

信条にあるごとく、フローレン社員としての基本は  
「まごころ」である。

「まごころ」をつくせば、お客さまの信頼を得ることができ、  
その行為は必ず報いられる。  
私たちにとっての「お客さま」とは…

- ①商品を供給して下さる「メーカー」
  - ②ベンダーを設置して下さっている「販売店」（設置先）
  - ③商品を買って下さる「消費者」
- である。

それぞれのお客さまへの対応は内容的には異なるが、  
すべてに共通するのは  
「まごころ」による心づかいの対応である。  
どんな場合にも相手のことを考え、  
相手先に喜ばれるフローレンでなくてはならない。



## 社名・ロゴマーク

## 社名・ロゴマーク

メインカラー

# ビビット・レッド

明るく、エネルギーで若さあふれる  
ビビットな赤。日本色名では「深紅・真  
紅」「紅韓紅花」「赤丹」など

## カラー選定のコンセプト

事業として…便利さ・お役立ち・喜ばれる  
会社として…若さ・フレッシュさ  
仕事として…早さ。スピード  
商品として…さわやかさ  
企業として…伝統・信頼される・正直さ

サブカラー

## ビビット・ブルー

若さと、スポーティーさ+「すがすがしさ」を補足するためのサブカラー

ディープ・イエローアッシュグリーン

多くの色の中で「信頼感あるイメージ」をもつとも明確に標榜する色。

## 「ヤング」 & 「スピーディー」

& 「エネルギーッシュ」  
& 「すがすがしい」 + 「信頼感」 + 「誠実」  
  & 目立つ

イメージ 語源をもつカラーによる構成

フローレンは、1976年に清涼飲料水の卸業として創業、「一萬」と「おいしい飲み物を多くの人々に、いろんな場所で」(福澤敏雄社長)提供することを追求している。

## 社名メモ

フローレン

同社は福澤社長らが脱サラして設立。山梨サンキスト販売として事業を起こし、82年に現社名に改めた。

フローレンは英語のFLOREN CK(集まる)とLENG THEN(長くする)を組み合わせた造語。「真心を込めてお客様と接し信頼を得る」「永久的に企業活動を続けていきたい」と、熱誠などの意味合いをそれた思いを込めている。

ロゴマークはC-I(企業ロゴ)と、それを持たせている。

同社は本社販売部を中心とし、山梨東(東八代郡御坂町)、佐久(長野県佐久市)、長野(同県塙市)に営業所を置き、県内全域と長野の一部で事業を展開。コーヒーやジュースなど大手飲料メーカーの製品を中心に扱っている。事業エリアで約5500台のベンダーマシンイメージ確立戦略の一環として、97年に設けたロゴに象徴される「ボレー」トカラーは赤をメインに、青と緑をサブに位置付け

# 「信頼と永久」の思い込める



## 会社概要

平成 18 年 2 月現在

商 号 株式会社 フローレン

本社所在地 〒 400-0117 山梨県甲斐市西八幡 1174 番地

TEL.055-279-6111 FAX.055-279-6110

支店営業所 本社営業部

〒 400-0117 山梨県甲斐市西八幡 1174 番地

TEL.055-276-5657 FAX.055-276-5668

長野佐久営業所

〒 385-0022 長野県佐久市大字岩村田上砂田 1717-17 番地

TEL.0267-67-5207 FAX.0267-67-5245

長野営業所

〒 387-0017 長野県千曲市中 250-1 番地

TEL.026-274-0885 FAX.026-274-0887

創 業 昭和 51 年 (1976 年) 3 月

資 本 金 3,600 万円

役 員 代表取締役 福 沢 敏 雄

取締役 福 沢 敏 治

取締役 志 村 啓 行

取締役 米 山 一

取締役 菅 野 照 彦

取締役 福 沢 正 治

監査役 木 崎 三 男

監査役 伊 東 静 夫

従 業 員 85 名

業 務 内 容 清涼飲料の卸業務・フルオペレーション業務

専務取締役  
福澤 敏治

設 備 営業車両 65 台

自社保有ベンダーマシン 6,500 台



監査役  
山岸 孝・木崎三男

関係会社 レュネール株式会社

〒 400-0043 山梨県甲府市国母 4 丁目 5-14 番地

TEL.055-222-0651 FAX.055-222-0653



### 長野営業所

〒 387-0017 長野県千曲市中 250-1 番地  
Tel.026-274-0885



### 本社

〒 400-0117 山梨県甲斐市西八幡 1174  
Tel.055-279-6111

### 本社営業部

〒 400-0117 山梨県甲斐市西八幡 1174  
Tel.055-276-5657



### 長野県

千曲市

佐久

### 山梨県

甲斐市

西八幡

甲府市

国母

### レユネール株式会社

〒 400-0043 山梨県甲斐市国母 4 丁目 5-14  
Tel.055-222-0651

### 長野佐久営業所

〒 385-0022 長野県佐久市大字岩村田上砂田 1717-17  
Tel.0267-67-5207



## 沿革・業務経歴

昭和 51 年 3 月 創業

ダイドー株式会社及び森永製菓と取引開始 小売店への自販機展開・商品の卸売り開始

(現・ダイドードリンコ株式会社及びダイドードリンコベンディング共栄会)

昭和 61 年 4 月 長野佐久営業所開設 (長野県佐久市横和)

平成 元年 12 月 山梨東営業所開設 (御坂町成田)

平成 3 年 10 月 長野佐久営業所移転 (長野県佐久市岩村田)

平成 4 年 5 月 日本たばこ産業株式会社と取引開始 (現ジェイティーフーズ株式会社)

平成 5 年 3 月 フルオペレーションサービス事業開始

平成 5 年 7 月 サントリーフーズ株式会社と取引開始

平成 5 年 9 月 長野営業所開設 (長野県更埴市打沢)

平成 7 年 1 月 長野営業所移転 (長野県更埴市中、現・千曲市)

平成 9 年 5 月 富士コカ・コーラボトリング株式会社と取引開始

(現コカ・コーラセントラルジャパン(株))

平成 9 年 11 月 住友海上火災保険株式会社と代理店契約締結 (損害保険代理店)

平成 11 年 12 月 特販部新設 山梨県内の地域有力卸売店へ商品供給

平成 13 年 3 月 出資により子会社レユネール株式会社設立

・ジェイティ商品の販売業務を移転

平成 13 年 12 月 増資

平成 14 年 2 月 サッポロビール飲料株式会社と取引開始 (現サッポロ飲料株式会社)

平成 14 年 3 月 新東亜交易株式会社と取引開始 (大塚製薬・ポッカコーポレーション)

平成 15 年 12 月 自販機コーナー部新設

平成 16 年 2 月 山梨東営業所閉鎖 (本社営業部へ吸收)

平成 17 年 4 月 山梨県自動販売機関連協議会発足加入

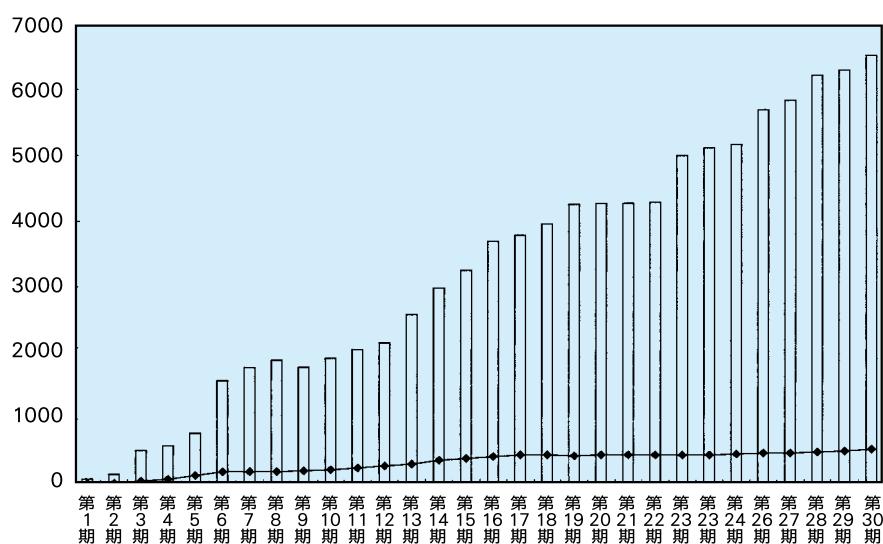
平成 18 年 7 月 株式会社サンガリアと取引開始

平成 18 年 9 月 エスエス自販機販売株式会社 (アサヒ飲料(株)製品) と取引開始

## 創業当時社屋



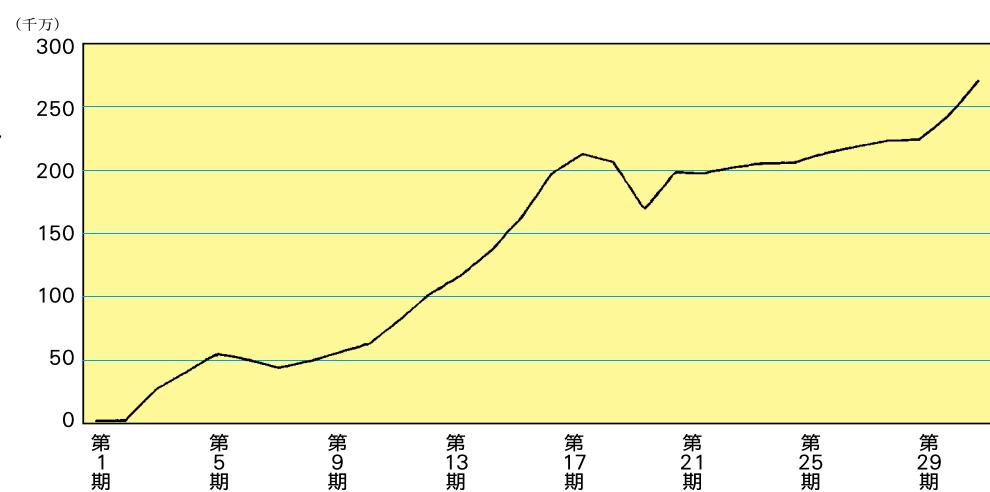
## 現在社屋



ディーラー数  
ルート数の推移

■ ディーラー数  
● ルート数

## 売上高の推移



## 飛躍する企業に向けて

専務取締役 福沢 敏治

当社創業時（昭和51年）、お客様との信頼関係（GOOD WILL）を元に10数年にわたり、商店を中心に卸売りをしてまいりました。

平成4年には、社会環境の変化、お客様のニーズに答えフルオペレーション業務を開始致しました。

平成15年には、お客様がいつでも、どこでも、好きな飲料を選ぶ事が出来る様にと自販機コーナーを設立しました。これにより、お客様が低価格な商品を豊富なアイテム数から選べる様になっています。

現在、(株)フローレン、レュネール(株)合わせて6,500台の自販機保有数を、35期までには10,000台にし、(株)フローレン3営業所、レュネール(株)の4営業所体制で営業活動を行っております。

また、営業活動の他、山梨県自販機関連協議会の指示により、山梨県内の当社ルートカーに防犯ステッカーを貼り、安心安全パトロールの地域巡回をしております。また、地震、災害問題に取り組み、災害自販機ベンダーの展開も進めております。環境対策においても、空缶、空ペット、自販機のフロンについても、協力会社と共に資源物の回収をしております。今後も引き続き、関連会社、地域行政、お得意様の御協力を頂き、30周年を機に、あらためて当社の発展過程を振り返り創業の精神を想起すると共に邁進し、飛躍していく所存であります。

## 事務の合理化OA化

当社では、1985年事務の大半を占める計算作業の合理化を目的として顧問会計事務所より推奨を受け、「JDLのパソコン及び取引伝票の集計用として販売管理ソフト」を導入し、OA化の第一歩を踏み出した。

また、電算機の導入に伴いデータの入力専任パート事務員を雇い入れ、ソフトの運用及び入力データの整合性のチェックは会計事務所に委託した。

次ぎに当社外交販売員としての基本業務であるルートセールスマンの事務処理の合理化・商品管理・取引先別販売データ・売掛管理など「営業管理」面を電算化する事が急がれた。当時は当社のルートセールスにマッチしたパッケージシステムと言われるものがなく電算機の運用、システムの開発に必要とされる多くの人手を全て社員で賄うことは、コスト的に非常に困難であった。

そこで1990に当社のルートセールスと同様のセールス形態をとる、主要取引メーカーのダイドードリンコ株式会社の協力により、当時「ダイドーベンディング共栄会」員企業への業務支援の一環として自社の営業管理システムを共栄会員企業向けにカスタマイズを入れ、「ダイドー共栄会システム」としてソフトを無償での提供を受けた。

システムの保守・メンテには日本電気(株)とダイドードリンコ(株)情報システム課がこれにあたった。

このシステムの導入により当社のルートセールスの事務処理は大幅な省力化、効率化が図られた。

その後1998年に山梨県下のレギュラーセールスのルートセールス効率の見直し、取引メーカーの増加、フルオペレーション事業の拡大、またコンピューター2000年問題に対応するため、レギュラーセールスの受注配達システムの開発を外部業者に委託導入し、長野地区のレギュラーセールス用システムは「新ダイドー共栄会システム」にハード及びソフトを入れ替え、フルオペレーション業務用システムは全営業所統一でキャノン製パッケージシステム「OPSISオプシス97」を相続導入した。

山梨県下のレギュラーセールスにおいては、従来のルートセールスから受注配達体制に切り替え受注担当セールスマンがお得意様を訪問し受注データを直接手持ちポータブル端末機にデータを入力し、帰着後端末データをホストコンピューターにアップロードし、翌日アップデータを集計した。集計後翌日納品に必要な、納品計算書、積込指示書を出力受注後翌々日にお得意様に商品を納品する体制を構築した。

これにより必要最低限での積み荷、飛び回りのない納品、会社商品在庫の削減、営業車の限られた積載量での複数メーカー商品の混載納品により効率化を図った。

また、業界全体で拡大傾向にあったフルオペレーション事業に対しても自販機と携帯端末

で光通信での自販機販売情報の収集を行い的確な販売データの把握を基礎とした、戦略的な統計・分析資料の提供、実質的なセールス活動時間の拡大、営業所事務の標準化と精度向上、事務処理負荷の軽減を目的に「OPSISオプシス97」を導入した。

その後2000年に企業をとりまく経営環境にスピーディー且つ柔軟に対応する為、本社経理用パソコン並びに経理用ソフト「戦略財務情報システムFX2」を導入し、業績管理・予算管理・資金管理をリアルタイムに把握し、対応を可能にした。

また2004年から営業管理システムのさらなる充実を図る為、順次「OPSISオプシス」の最新バージョン「OPSIS V4」を導入し、レギュラーセールス業務、フルオペレーション業務を全社統一の営業管理システムによる運用を行い、今後もますます多様化する社内外のニーズに応えるべく対応していく。

## 総務部

総括課長 高石 巳善

総務部は当社が営業を開始した昭和51年2月営業部とともに設けられ、それ以来30年間に亘り会社運営の一役をなしてきた。

当初は数人での起業であり数年間は、営業部長・総務部長も社長が兼任で務めた。

また当社では、一般小企業では総務部の業務の一部である経理業務をとりわけ重要な部署と考え平成3年に経理課を発足させ、社内的には総務部と言う部署はなく経理課で総務業務を行う体制がとられた。

その後平成13年に事業規模の拡大に伴いそれまでの経理課を総務部 経理課と総務課庶務係とコンピュータ課の3部署に分割した。

これからも管理部門としての機能の一層の充実を図っていく。

住 所 甲斐市西八幡1174

所属人員 6人



## サービス課

課長 勝 俣 直 人

サービス課は、平成8年3月に自販機修理を目的とした部署として稼働を始めた。

メーカーのサービスとは、異なり当社の扱っている全ての自販機メーカーに柔軟に対応出来る事が強みでもある。又、営業マンに対して現場での修理の対応についての指導等を徹底して行い、現場で対応できる簡単な修理は、確実にこなせるよう個々のレベルアップをはかる事も重要な課題案として取り組んでいる所であります。

修理工エリアとしては、得意先全店が対象として、山梨県内一円と神奈川一部がエリアとなります。エリア的にも広域になりますが迅速に対応し確実な修理を念頭において、日々の行動を無駄なくするよう努力していきたいと思う。

自販機のつり銭盗難については おおいときを100とすると現在は、10にも満たない数字となっている。

今後も、迅速な修理に心掛け地味な仕事ではありますが売上に貢献できるように邁進し修理のレベルアップにも取り組んでいきたい。

住 所 甲斐市西八幡1174

## 本社セミオペ課

営業課長 坂本 英治

昭和50年12月25日に会社創業者である福沢社長が営業を開始、翌昭和51年に会社創業、本社セミオペ課として現在に至る。

山梨県全域を主な営業エリアとし、県外では神奈川県藤野市、静岡県富士宮市、長野県富士見町と広範囲におよび 5ルートで対応している。

自販機の設置場所としてアウトロケーションが大半を占め観光地が多いため夏に最盛期を迎える夏集中型であるのも特徴といえる。

営業内容としてはお客様に自販機を設置して頂き、スーパー、商店、雑貨店、ガソリンスタンドなど小売店への清涼飲料の卸売り、又飲食店などには、業務瓶の卸売りを行っている。総自販機台数861台を保有し売り上げは会社全体のシェア11.6%をしめている。今後も各所員、得意先とのコミュニケーションを密にし、柔軟性をもって活動し、お得意様と共に発展していきたい。

住 所 甲斐市西八幡1174  
所属人員 8人  
ルート数 5ルート  
車両台数 6台



## 本社営業部フルオペ課

営業部次長 小田切 哲男

平成5年3月に新たな販売態勢の部署として発足し、平成7年3月に拠点を旧山梨東営業所と現営業部と二分し 更に平成16年3月に本社営業部フルオペ課として本社に統合し現在に至る。一部の旧北巨摩、南巨摩郡地域を除く山梨県全域が担当エリアである。

製品の補充から売上金の回収、つり銭の補充、空カンの回収など 自販機に関する事をすべて管理し お客様に設置させていただいている。

お客様のニーズに合った自動販売機のメーカー、機械の大きさ、又季節に合ったHOT & COLDの切り替え、新製品の早期自販機への投入など日々心掛け営業しています。

今後の展望としても フルオペレーションシステムが主流で続いていくと思われますので、

セミオペレーションからの移管や 新規ディーラー獲得をし、売上を伸ばしていくと思います。



住 所 甲斐市西八幡1174  
所属人員 14人  
ルート数 10ルート  
自販機設置台数 1106台  
車両台数 12台

## 長野県佐久営業所

統括所長 神津 哲哉

佐久営業所は昭和61年4月に佐久市横和に開設された。その後 業務拡大に伴い、平成3年10月に岩村田に移転、現在に至っている。

テリトリーは、県内で東信地区といわれる佐久市を中心に 4市6町4村で広範囲なテリトリーであることも特徴の一つといえる。

営業所の周囲は 北に浅間山、東に荒船山、南に蓼科山、甲武信岳を源に3県にまたがる千曲川と自然に囲まれた緑と水の地域である。交通面も 上信越自動車道、長野新幹線などの開通により、観光客も年々増え四季で味わえる観光を満喫できる。

当営業所では、セミオペ3ルート、フルオペ5ルート、自販機コーナー2ルートで、特に現在は自販機コーナーに力を注いでいる。観光客の増加により、県内外からの人の流れをつかみ、お得意様へのサービス向上、新規得意先の獲得を目指し積極的なセールス活動を展開していきたい。

住 所	佐久市岩村田字上砂田1717-17
所属人員	13人
ルート数	10ルート
ディーラー数	1208件
車両台数	13台



## 長野営業所

所長 上原 貴幸

長野営業所は平成5年9月に更埴市（現千曲市）に開設され業務拡大に伴い平成7年1月に現住所に移転した。営業エリアは南信東信地域以外県内全域である。

周囲は北に蔵の町稻荷山、南に戸倉上山田温泉、西に姨捨名月の里、東にあんずの里、中央に日本一の長さを誇る千曲川を控え自然と歴史に囲まれた地域である。

県内の人口（221万1千人）の2割を占める長野市では1998年に冬季オリンピックで賑わいをみせてからは地域全体の活性化につながりそれだけに競合他社の攻撃も激しい。

清涼飲料総合卸売業としてセミオペ29%、フルオペ68%、自販機コーナー3%であり年々フルサービスの傾向にあるが、お客様への手売り販売などによる「末永いお付き合い」もさせて頂いている。

また当社独自の自販機コーナー「ハッピードリンクショップ」の命名も当所員今井主任の案が採用されている。今後も自販機コーナーを県内全域に広げつつ既存先のお得意様の活性化も図りたい。

今後も所員一人ひとりの知恵と意見を大切にし、邁進したい。

住 所	千曲市中250-1
所属人員	10人
ルート	7ルート
ディーラー数	827軒
車両台数	9台



## 特販部

部長 米山 一

特販部は、株フローレンの二次店卸部門として平成11年12月に設立され翌年の1月に営業を開始した。後に 平成8年5月に設立されていた主に飲食店でのドリンクバー等の商品を取り扱うディスペンサー部門も 特販部へと移管され、現在の特販部に至っている。

特販部の主なエリアとしては韮崎市、南アルプス市、甲府市、中央市、南部町、郡内地域であり、又ディスペンサーにおいては県内全域としている。

現在、中卸部門としては、他のオペレータ会社等20店舗に商品を納品している。

自販機台数は1,254台で営業を行い 特販部の全体の65.6%の売上げをあげています。又ディスペンサーは52店舗にシロップ及び炭酸を納品し、120台の機械にて販売を行い特販部全体の13.1%の売り上げをあげています。

今後の 特販部の展望としては、自販機コーナー部への自販機設置の協力や 2次店6社の自販機の増設の協力をお願いし売り上げアップに繋げたいと思います。

住 所	甲斐市西八幡1174
所属人員	5人
ルート数	2ルート
ディーラー数	20軒
車両台数	4台



## 自販機コーナー部

部長 菅野 照彦

平成15年10月に市場開発部として開設され、17年4月に現在の自販機コーナー部の名称に改められた。当部は、本社と所存を同じくする本社営業部、2次店課と事務所を共有しており、日々協力して営業にあたっている。

営業エリアは 県内の国中と呼ばれる地域で 甲府盆地を中心とし、北は清里、西は小渕沢町、南は身延町、東は笛子峠までとなっている。

営業内容としては 1箇所当たり5台～6台からなる自動販売機コーナー（ハッピードリンクショップ）の管理・運営を大きな柱とし、お得意様であるパチンコ店の自販機も合わせて担当し 社内的には特殊性のある部署となっている。

最大の“うり”は豊富な品揃えの中、コンビニと同じ商品が100円で買えることである。

今後の展望としては展開エリアの拡大で当社自販機コーナーの総称である“ハッピードリンクショップ”的知名度アップにも繋がればと思う。

住 所	甲斐市西八幡1174
所属人員	7人
ルート数	6ルート
ディーラー数	91軒
車両台数	7台



## レユネール株式会社

常務取締役 志村 啓行

レユネール株式会社は、平成13年3月、株式会社フローレングループの一翼を担いJ.T.飲料の製品を基幹商品に位置付け、(株)フローレングループのシェア拡大を図る目的で設立された。

テリトリーは、山梨県内全域になり、5ブロックに大別し、12市9町である。近年、道路網の発達（中部横断道、山梨環状線など）の整備により人口の流動化など、経済、社会環境が急速に変化している。今後幹線道路網の発達、大型商業施設の開発等予定されており、市場の動向に注意を怠らず、積極的なセールス活動を展開していきたい。

営業内容としては、フルオペ、自販機コーナーの2部門により構成されている。県下における飲料市場には、飲料自販機が約20,064台あり、極めて劣位な状況から 大型ショッピングセンター、公共施設、タバコ店などを中心に自販機の積極的なセールス活動の展開により、設置台数も拡大している。また商品の販売動向、商品の管理向上のため光通信システムを平成14年より導入し、品質管理データー整理など広範囲に効率化が図られた。

今後、自販機コーナー部門では幹線道路、住宅密集地などを中心にコーナー設置を積極的に展開していきたい。今後は現お得意様との売り上げ向上の協力が重要になり新規得意先獲得との両立に全力で打ち込む販売体制の充実と市場の動向を素早くキャッチし、細分化した地域戦略を練り変化に対応できる柔軟性をもってセールス活動を展開していきたい。また現在推進している災害救援型ベンダーを行政との連携により新規お得意様獲得のチャンスとしていきたい。

住 所 甲府市国母4丁目5-14

所属人員 11人

ルート数 8ルート

ディーラー数 716件

車両台数 10台





愛宕山での清掃活動







平成1年  
山梨東営業所開所式

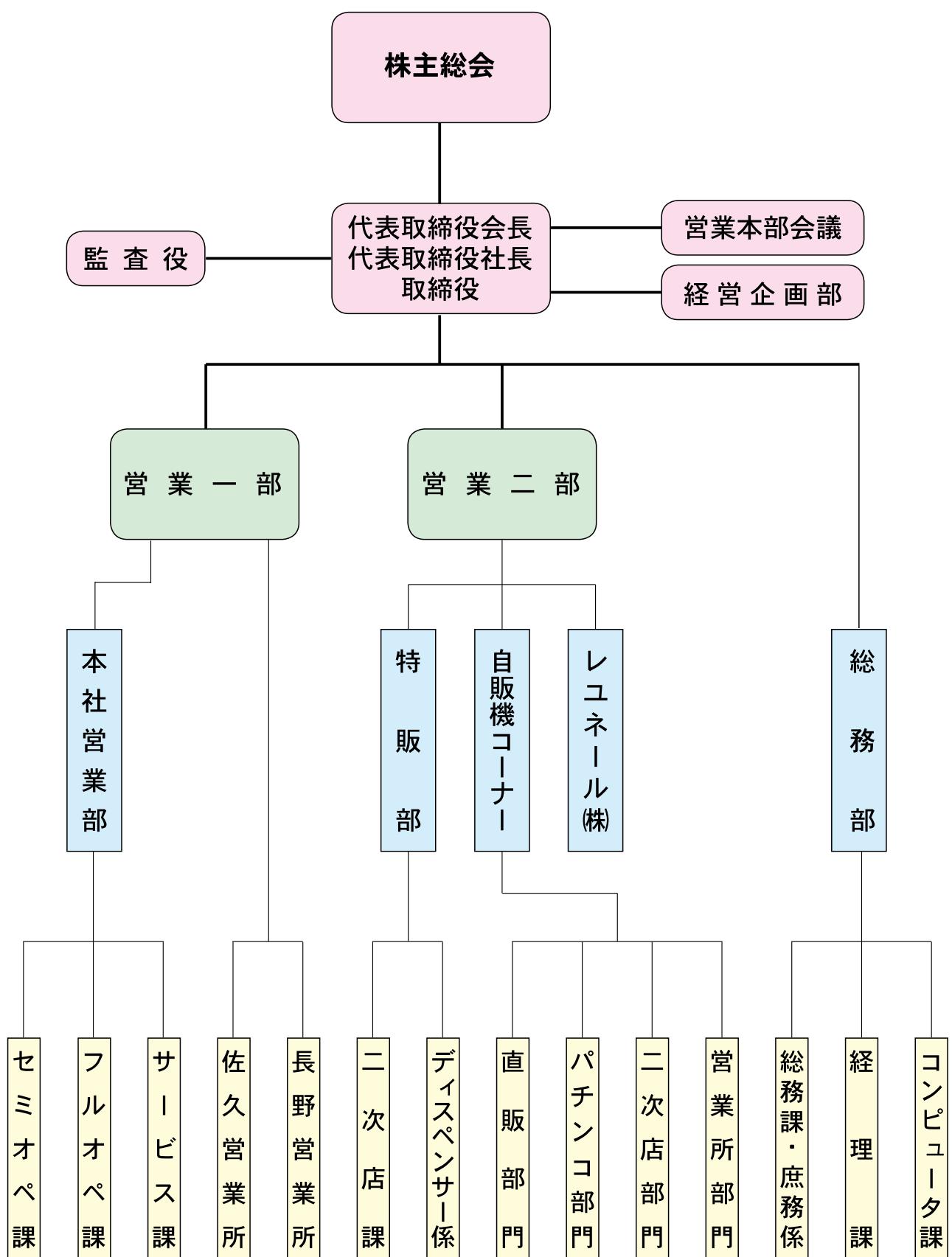


平成4年  
本社新社屋開所式





## 組織図



# 年表

年表	当社の歩み	全飲料の動き	出来事
1975年 (S50)	会社設立準備室を作る 営業開始		山陽新幹線開業（岡山～博多駅間） 沖縄国際海洋博覧会開幕 3億円事件が時効成立
1976年 (S51)	会社設立 山梨県国中地方を中心斬新規開拓	ホット&コールド兼買式 自動販売機開発	鹿児島市で国内初の5つ子誕生 アメリカでロッキード事件発覚 モントリオールオリンピック
1977年 (S52)	山梨県郡内地方を中心斬新規開拓		青酸コーラ無差別殺人事件 日本の領海を12海里と定める。 日本発の静止衛星ひまわり打ち上げ
1978年 (S53)			高層ビル サンシャイン60完成 新東京国際空港（現成田）開港 宮城県沖地震
1979年 (S54)			三菱銀行人質事件 日本坂トンネル火災事故 南アルプススーパー林道開通
1980年 (S55)		初のスポーツドリンク発売	中央自動車道甲府昭和～韮崎間開通 モスクワオリンピック開催 国立山梨医科大学開校
1981年 (S56)		初のウーロン茶飲料発売	中央自動車道小淵沢～伊北間開通 甲府北バイパス開通 中国残留孤児が初来日
1982年 (S57)			ホテルニュージャパン火災 500円硬貨発行 中央自動車道が全面開通
1983年 (S58)			中国自動車道全面開通 日本海中部地震（M7.7） 三宅島大噴火
1984年 (S59)		清涼飲料の自動販売機、 200万台越える	日経株価が1万円を突破 グリコ・森永事件 新紙幣発行（1万円札福沢諭吉・5千円札新渡戸稻造・千円札夏目漱石）
1985年 (S60)		初の缶入り緑茶発売 栄養ドリンクに農薬混入事件 起こり、自動販売機に警告ステッカー配付、新聞に警告広報掲載で対応	日航機墜落事件 関越自動車道全線開通 青函トンネルの本坑貫通
1986年 (S61)	長野佐久営業所開設（佐久市横和）		第41回国民体育大会が山梨で開催 Chernobyl 原子力発電所事故 三原山が大噴火
1987年 (S62)			バブル経済が1991年迄続く 国鉄が分割・民営化、JRグループ発足 ブラックマンデー。世界の株式市場大暴落
1988年 (S63)			リクルート事件 東京ドーム完成 ソウルオリンピック開催
1989年 (S64) (H1)	山梨東営業所開設（御坂町成田）		元号が昭和から平成へ 横浜ベイブリッジ開通 ベルリンの壁崩壊
1990年 (H2)			国際花と緑の博覧会 イラク軍クウェート侵略 東西ドイツの統一

# 年表

年表	当社の歩み	全飲料の動き	出来事
1991年 (H3)	長野佐久営業所移転(佐久市岩村田)		湾岸戦争勃発 バブル景気崩壊 ソビエト連邦の崩壊
1992年 (H4)		10年続いた缶飲料価格 100円を110円に値上げ 相次ぐ 大阪の弁護士グループ、はみ出し自動販売機で企業を告発	福岡ドーム完成 毛利衛がスペースシャトルで宇宙へ バルセロナオリンピック開催
1993年 (H5)	本社フルオペ課開設 長野営業所設立(更埴市打沢)	PETボトルリサイクル協進 協議会設立	長野自動車道が全線開通 Jリーグが開催 冷夏に見回され大凶作(平成の米騒動)
1994年 (H6)		はみ出し自動販売機、是正終了 製造物責任法(PL法)公布、 (施行は1年後)	関西国際空港開港 松本サリン事件発生 東京で観測史上最高温度39.1度記録
1995年 (H7)	長野営業所移転(千曲市中)	食品の製造年月日、賞味期限に切り替え実施、移行期間は、2年	阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件 高速増殖炉「もんじゅ」事故
1996年 (H8)	サービス課設立	自動販売機据付基準(JIS B-8562)の改正	大阪府を中心に大腸菌O-157が発生 ペルー首都リマで日本大使館人質事件 アトランタオリンピック開催
1997年 (H9)		飲料用紙容器リサイクル協議会発足 容器包装リサイクル法によるPET ボトル、ガラス容器の再商品化開始 エコベンダー設置広がる、同年度新規設置機は、約70%がエコ	香港、イギリスから中華人民共和国に返還 秋田新幹線・長野新幹線開業 消費税5%に増税
1998年 (H10)		この年、清涼飲料値上げ相 次ぎ、自販機では120円が 主流にいわゆる「二アワーター」相次ぎ発売され、ブームに	郵便番号7桁化 長野オリンピック開催 和歌山毒物カレー事件
1999年 (H11)	本社特販部設立	自動販売機犯罪増加、特に 外国変造硬貨の不正使用が 急増	ヨーロッパ単一通貨ユーロ登場 上信越自動車道全線開通 2000年問題騒動
2000年 (H12)		容器包装リサイクル法が完全 実施(その他紙・その他 プラも対象に)	日本で介護保険制度始まる シドニーオリンピック開催 雪印集団食中毒事件
2001年 (H13)	子会社レユネール会社設立 (甲府市国母)	フロン回収破壊法公布、自動 販売機のフロン回収義務化へ アルミ製ボトル缶容器、清涼 飲料業界にも採用広がる ホット対応PETボトルに各社が参入	21世紀スタート 歌舞伎町ビル火災 アメリカ同時多発テロ事件発生
2002年 (H14)		自動販売機が省エネ法による 特定機器に追加指定される 健康意識の高まりを受けて、 機能性飲料、スポーツドリンク 伸張	学習指導要領改定、完全週5日制 北朝鮮に拉致された被害者5人帰国 住民基本台帳ネットワーク開始
2003年 (H15)	市場開発部設立	期限表示を「賞味期限」に 統一することが告示	イラク戦争、フセイン政権崩壊 自衛隊イラクに派遣される SARSがアジアを中心に世界的に流行
2004年 (H16)	自販機コーナー名称を「ハッピードリンクショップ」に 山梨東営業所閉鎖(本社へ吸収)	記録的猛暑で7月は、前年同月比 20%を超える増加、過去最高の出荷量 自動販売機の所在地表示開始、福岡・大阪から全国へ(福岡市は、 前年から)	
2005年 (H17)	自販機コーナー部設立 山梨県自動販売機関連協議会発足加入		愛知万博「愛・地球博」開催 郵政民営化関連法案が可決、成立 日本の人口が戦後初めて減少
2006年 (H18)	月間売上3億円達成		

